

平成22年12月28日
水産庁

水産物の市況について(平成22年12月及び平成23年1月)

—東京都中央卸売市場における平成22年12月(平成22年11月21日～12月20日集計)の市況と、
平成23年1月の市況見通し(前月との比較)—

I 平成22年12月の全体の市況

東京都中央卸売市場における総入荷量(水産物の生鮮品、冷凍品、加工品の合計)は前月並みとなり、卸売価格(水産物全体の1キログラム当たり平均価格)はやや強含みに推移しました。

II 平成23年1月の主要品目の市況見通し

「まいわし(生鮮品)」

入荷量は前月並みと見込まれ、卸売価格は横ばいに推移すると見込まれます。(主漁場は犬吠埼沿岸だが、依然低調。)

「さけ・ます(塩蔵品・冷凍品)」

入荷量は新物チリ銀の搬入が増加するが、製品が少なくなることから、全体的には前月と比べ減少すると見込まれるものの、比較的価格の安いチリ銀が半数近くを占めることから、卸売価格は横ばいに推移すると見込まれます。

「さば(生鮮品)」

入荷量は九州西方海域や犬吠埼沿岸において盛漁期を過ぎつつあることから、前月と比べやや減少すると見込まれ、サイズが小さいこともあり、卸売価格は横ばいに推移すると見込まれます。

「するめいか(生鮮品・冷凍品)」

入荷量は各地終漁模様となり、前月と比べ減少すると見込まれ、卸売価格はやや強含みに推移すると見込まれます。(サイズは日本海側、太平洋側ともに20尾主体。三陸は15尾や25尾も混じっている。)

「あじ(生鮮品)」

入荷量は前月と比べやや増加すると見込まれ、卸売価格はやや弱含みに推移すると見込まれます。(主漁場は山陰沿岸、九州西方海域。)

「まぐろ(冷凍品)」

入荷量は需要の最盛期を過ぎることから、赤身類、脂身類ともに前月と比べると減少すると見込まれ、卸売価格はやや弱含みに推移すると見込まれます。

凡例(目安)

増減率	入荷量	卸売価格
0～2%	並み	横ばい
3～10	やや増加(減少)	やや強(弱)含み
11～20	増加(減少)	強(弱)含み
21～51	かなり増加(減少)	かなり強(弱)含み
51～	大幅に増加(減少)	—

東京都中央卸売市場への総入荷量・卸売平均価格(概数)

(単位:千トン、円/kg)

	12月		前月		前々月	
	入荷量	価格	入荷量	価格	入荷量	価格
22年	53	889	53	816	52	790
前年	55	847	52	786	52	748

注1:入荷量及び卸売価格は、それぞれ前月の21日から当月の20日までの暫定数値。

注2:入荷量は生鮮品、冷凍品、加工品の合計。

主要品目の価格

(単位:円/kg、%)

	東京都中央卸売市場卸売価格(概数)			
	12月	前月対比	前年同月対比	平年同月対比
いわし(生鮮品)	356	77	105	74
さけ・ます(平均)	739	100	111	112
(ぎんざけ塩蔵品)	683	100	101	99
(あきさけ塩蔵品)	420	100	91	87
(とささけ塩蔵品)	840	100	92	98
(べにざけ塩蔵品)	1,050	100	101	104
(さけ類冷凍品)	726	99	123	122
さば(生鮮品)	483	97	133	112
するめいか(平均)	340	88	90	85
(生鮮品)	339	86	85	81
(冷凍品)	357	100	121	114
あじ(生鮮品)	502	108	115	108
まぐろ(冷凍品)	1,304	102	91	90
(めばち冷凍品)	991	102	92	103
(きはだ冷凍品)	813	101	88	116
(くろまぐろ冷凍品)	2,860	100	98	89
(みなみまぐろ冷凍品)	1,668	94	88	75

注1:品目により、市場で主流となる形態が異なることから、市況を把握する指標としてもっとも適当な形態についての価格データを掲載している。

注2:12月の価格は1~20日までの速報値。平年とは平成17年~21年の加重平均値。

注3:さけ類冷凍品は、主として、ぎんざけ、あきさけ、とささけ、べにざけ、アトランティックサーモンが含まれる。

注4:さけ・ます(平均)は、さけ・ます類全般の塩蔵品及び冷凍品が含まれる。

注5:まぐろ(冷凍品)は、めばち、きはだ、くろまぐろ、みなみまぐろが含まれる。

問い合わせ先:水産庁加工流通課企画調査班
 代表 03-3502-8111
 内線 6617 中谷、小林
 直通 03-3591-5612